

第1回 高品位介護シンポジウム

京都工芸繊維大学 伝統みらい教育研究センター主催

開催日時： 2011年11月25日(金) 13:00~17:30
開催場所： 京都工芸繊維大学 工織会館1階多目的室
参加費： 3000円(資料代)

開催趣旨

高齢者が多く存在する社会に突入した我が国において、介護は重要なキーワードであり、我々の生活に、そして将来に自らが抱える問題として関心が高いものである。

伝統みらい教育研究センターでは、京の匠のものづくりを知って、それを現代のものづくりに応用することを目的として、様々な解析を多くの協力を得て行ってきた。その活動の中で、得た言葉、匠の技の先に見える、製品に現れるものは、高品位であった。京の匠が産み出す工芸品は、総じて高品位製品と呼ぶことができると確信している。したがってものづくりに閉塞感の漂う日本においては、高品位製品を生み出すことが肝要であるという指針を得ることができた。

この高品位を、その他の分野に応用していこうとする活動を始めた。高品位なサービス、高品位な輸送などものづくり以外への応用を考えることとなった。その一つが介護である。高品位介護という何を想像し、何を求めることなのかの論議を長時間かけて行ってきた。一つの答えが、介護するものが疲れないこと、しかしそれを機械に頼って達成するのではなく、通常の人々の温かみが伝わる方法を維持したままに行うことであった。それらの成果の報告も踏まえて、高品位介護とは何なのか、どこを目指すのか、を多くの関係者と論議をしたい。これが本シンポジウム開催の動機である。

■ 13:00 開会の挨拶

濱田 泰以 (実行委員長・京都工芸繊維大学伝統みらい教育研究センター長)

■ 13:10~13:50 基調講演「高品位介護の実現に向けた情報通信技術による取り組み」

桑原 教彰 (京都工芸繊維大学 准教授)

■ 14:00~14:30 「ケアの質を高める」

森川 隆 (社会福祉法人すいよう会 特別養護老人ホーム アソカ園 施設長)

■ 14:30~14:50 「入浴介助における介護者の負担に関する調査」

山本 晃嘉 (株式会社 シティー・エステート 代表取締役)

■ 14:50~15:10 「介護者の視線と動作から学ぶ」

後藤 彰彦 (大阪産業大学 准教授)

■ 15:30~15:50 「特殊溶接技能伝承のための知識獲得に関する研究」

岩本 英久 (徳山工業高等専門学校 教授)

- 15 : 50～16 : 10 「移乗時の抱え上げ動作の姿勢に関する考察」
吉川 貴士（新居浜工業高等専門学校 教授）
- 16 : 10～16 : 30 「高品位介護におけるリクリエーションとしての塗り絵」
川畑 慎一郎（株式会社 soliton corporation）
- 16 : 30～16 : 50 「土壁を用いた介護施設の室内環境の変化」
鷹尾 憲一（株式会社 エイチ・イン・ソリューション 代表取締役）
- 16 : 50～17 : 20 「高品位介護に関する研究の成果と今後の課題」
来田 宣幸（京都工芸繊維大学 准教授）
- 17 : 20 閉会の挨拶
後藤 彰彦（実行副委員長・大阪産業大学 准教授）

問い合わせ先：京都工芸繊維大学 伝統みらい教育研究センター
E-mail : mirai04@kit.ac.jp
TEL : 075-724-7850 FAX : 075-724-7844
事務担当：舟楯 千江美
*当日連絡先：濱田 泰以（携帯 090-1674-8233）

第1回 高品位介護シンポジウム 実行委員会

委員長

濱田 泰以（京都工芸繊維大学伝統みらい教育研究センター）

副委員長

岩本 英久（徳山工業高等専門学校）
後藤 彰彦（大阪産業大学）
吉川 貴士（新居浜工業高等専門学校）

委員

太田 智子（中央ビジネスグループ）
岡本 健志（株式会社 IAO 竹田設計）
澤田 貞良（大阪府議会議員）
高井 由佳（大阪産業大学）
那須 真樹（株式会社 soliton corporation）
西田 隆一（株式会社 和光製作所）
松田 嘉代子（有限会社 春日不動産鑑定事務所）
和田 優（キヤノン 株式会社）

[50音順・敬称略]